

# 足元では軟調ながら、 引き続き注目されるメキシコ・ペソ

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

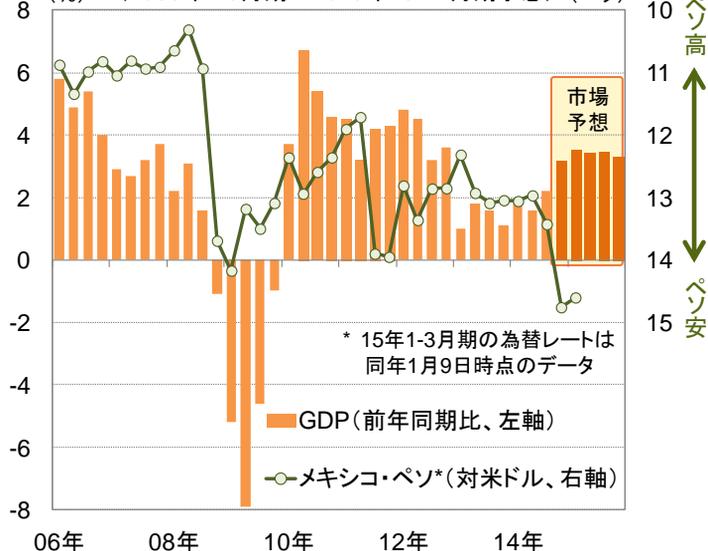
2014年半ば以降、原油をはじめとする主要商品の価格が下落傾向となっていることを背景に、投資家がリスク回避の動きを見せ、資源国や新興国の通貨が売られる中、メキシコの通貨ペソも対米ドルで軟調に推移し、先週には一時、2009年3月以来の安値をつけました。

メキシコは世界第10位の産油国(日量287.5万バレル、2013年)であり、石油関連収入が連邦政府の歳入の約3割を占めます。ただし、政府は今年、2.28億バレル相当の原油を1バレル=76.40米ドルで売る権利(プット・オプション)を確保しており、原油価格の下落に伴う歳入への影響を抑制できるとしています。また、産油国ではあるものの、同国の場合、石油の純輸出額はGDP比2%強にとどまり、価格が大きく下振れしても、同じくGDP比2%強の経常赤字への影響は限定的と考えられます。なお、産業構成比で鉱業は7%強に過ぎず、原油市況の下落は、非鉱業部門に燃料価格の低下などの恩恵をもたらす、景気に寄与すると考えられます。さらに、同国の輸出は、国別では米国向けが79%弱、品目別では工業製品・部品が83%弱と、結びつきの強い米国の景気拡大からの恩恵が見込まれます。メキシコのGDP成長率は低迷気味でしたが、2014年10-12月期以降は前年同期比3%を超える水準が続くと予想されています。

今年の半ば以降、米国で利上げが見込まれており、新興国への投資資金の流入ペースの鈍化や資金流出の可能性が懸念されています。ただし、メキシコの場合、米国景気に牽引される形で成長の加速が見込まれるだけでなく、米国に追従して利上げが予想されています。さらに、経常収支は赤字ながら、他の新興大国ほど大幅ではないほか、豊富な外貨準備や信頼性の高い金融政策に加え、今年から実行段階に移るエネルギー改革などの大胆な構造改革により、潜在成長率の向上が見込まれていることなどから、景気持ち直しや原油市況の落ち着きが確認できれば、メキシコとともに通貨ペソは今後、投資家の注目を集めるものと期待されます。

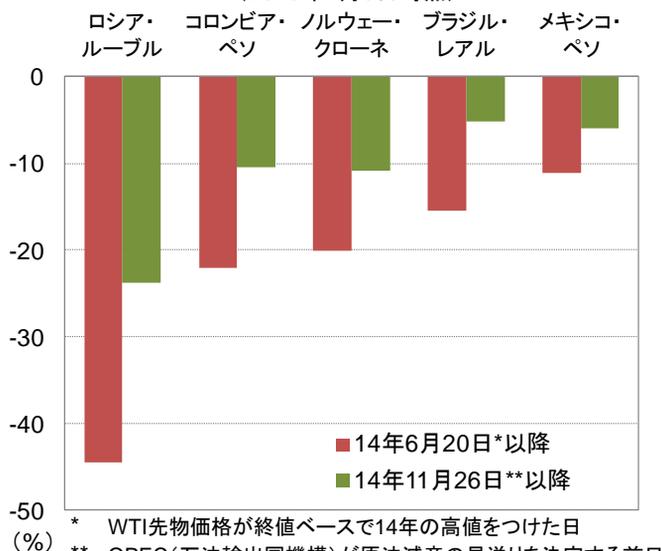
## メキシコのGDPと通貨ペソの推移

(%) (2006年1-3月期～2015年10-12月期予想) (ペソ)



## 主要資源国通貨の騰落率(対米ドル)

(2015年1月9日時点)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。